

4. 鈴木栄一(気研)：降水量に関する統計的研究(第8報)一順序統計量による解析。一年々降水量が増加している原因を要因別にしらべると台風、梅雨による降水量が増加しているため、その量は北日本ほど少ない。これに対し降水量の変動を順序統計量でしらべるのは方法として疑問視するむきがあった。
5. 斎藤博英(札幌)北海道における気候変化について
6. 北海道の気候の長期変化の予想の試み  
黒点数の11年平均値と札幌の7, 8月平均気温とは平行した長期変化を示している。黒点数が極大のとき温暖になるのはClaytonがだしたパターンから説明できない。黒点数とパターンとの関係は週期の長さによって違うらしい。黒点数の週期はいろいろあるが著者は169年週期を提案し、これを用いて気候変化を予想すると1965年頃黒点数は極小になる。このころは北海道は冷夏がつづき、産業は大きく変化せざるを得ないであろう。
7. 藤田敏夫(気研)：調和係数の統計的性質と延長予報への準備。  
さきに発表された窪田一栗原の調和係数の予報式を用いて各係数間の統計的性質を調べた。今回は中間報告的内容であったが、計算機械がうまく動けばかなりの成果が期待できよう。
8. 渡辺次雄(本庁)：積分大気の水平発散に及ぼす地面摩擦の影響(長期予報の理論的研究第9報)  
まえから積分大気の立場から月平均状態を解析しているが今回は積分大気発散式に地面摩擦の効果を入れ、Charneyが摩擦によって上昇気流があるとしたのは誤りであるとした。これに対し出発の基本式の考え方について納得できない立場の人もいた。
9. 三友栄(本庁)：偏西風帯の total momentum について、北半球半旬 500mb 天気図を用いて total momentum をしらべる、7半旬の週期で変動し、極大値に達すると本邦の気温は低くなる。
10. 木村耕三(旭川)：気象現象の定常的振動現象について。  
10日週期が一年おきに卓越し、天気図も10日毎によく類似している。ベースが変わると10日週期の位相が全く逆になる。この研究は各方面から注目されていたが、10日週期が隔年ごとに類似するのは2年週期が卓越するため10日ごとの類似が合わないのはベースが変わったためとするのはおかしいという疑問が出された。
11. 飯田睦治郎(気研)：大気循環変動の研究について  
北半球半旬 500mb 天気図の偏差を統計的にしらべ正負偏差の中心数やその地理分布を論じたが、まだ予報程度で将来の発展が期待される。
12. 朝倉正(気研)：広域天気図による秋霖の解析。  
北半球半旬、月平均 500mb 天気図を用いて夏から

秋霖に季節変化する過程を解析した。夏期の終りに北上した台風が偏西風帯に擾乱をあたえたと北半球の流れは変動して低示数型になって南北循環が卓越し、その一環として秋霖現象がある。この過程は二段階に分けられ米西海岸のリッジの消長は日本の季節変化に大きく関係している。

13. 安藤正次(仙台気研)：綜観的な長期予報技術とその問題点。

半旬 500mb のイソプレットを作ると季節的にきまってくるリッジやトラフがあってその消長は日本の季節変化と密接に関係している。冬期ユーラシア大陸 90°E にできる中緯度の峯は夏期 40°E にリズムを打ちながら変位する。この変動する位置とリズムが入梅、出梅と関係している。

14. 荒井康(気研)：プロッキング活動について。

Rex の定義にしたがってヨーロッパに生じたプロッキング高気圧の composite map をつくり、その時間変化を解析した。それによるとプロッキング高気圧が生ずる2半旬前から系統的な擾乱が偏西風帯に生じ、それが西進してプロッキング高気圧を形成している。

以上が研究発表の概要であるが、参会者は多方面にわたり、とくに北海道、東北、新潟からの出席を得て一種独得の気風が流れた。講演終了後例年通り懇親会をひらき、8時すぎに散会した。

### 関西支部だより

2月月例会「大気汚染」の問題は、最近次第に大きな問題となってきており、近畿地方では京阪神を中心とする諸関係機関が協同して、この問題と取り組んでいる。当支部では2月の例会に、近畿地方大気汚染調査連絡会と共催でこのテーマを取り上げた。

会場は大阪市教員会館で、2月26日午前10時から、午後5時過ぎ迄、工学・理学或いは医学等の見地から見た大気汚染の実態について、各担当者の講演が行われた。講演題目は次のとおり。

午前の部 ゼミナール (10~12時)

Atmospheric pollution (E. Wendell Hewson. comp. Met. P 1139~1157) 紹介者 京都大学 川西 博  
午後の部 講演 (13~17時)

1. 開会の辞 支部長 滑川 忠夫
2. 挨拶 近畿地方大気汚染調査連絡会委員長 梶原 三郎
3. 大阪に於ける大気汚染の測定 大阪気中野 道雄
4. Clイオン, So<sub>2</sub>イオンについて 大阪府環境衛生課 長谷川利雄
5. 空中細菌について 大阪大医学部 佐守 信男
6. 亜硫酸ガスの測定について 大阪大理学部 新良宏一郎
7. 大気汚染の人体に及ぼす影響 大阪市大医学部 堀内 一弥
8. 大気汚染の工場に及ぼす影響 大阪大工学部 新津 靖
9. 煤煙問題について 大阪市大家政学部 庄司 克
10. 閉会の辞 大阪気中野 道雄